第二回　全国俳句大会　最終選句のご紹介

選句、選評　佐々木　建成（俳人・天宵俳句会主宰）

受賞	会長賞	優秀賞			入賞							
支部名	関東	北海道	東北	東北	東北	関東	関東	中部	中部	関西	中国四国	九州
会員氏名（敬称略）	鷲澤　典子	佐藤　英介	石黒　秀雄	清水　孝	小山　昭雄	森木　茂子	吉田　勝彦	平川　晴代	柳澤　寿重	采野　久美子	川上　康登	吉永　武彦
選句	タッチダウン汗のボールをつなぎけり	蝉しぐれ般若心経くりかへす	養生の妻の粥吹く涼夜かな	どうしてとなにの連発夏休み	啞蟬の不意に飛び立つ仁王門	夕立の街を裂き行く救急車	三越へ踵を返す夕立かな	天の川父母のなれ初め聞かぬまま	窓開けて夜の秋知る書斎かな	蝉時雨今日は一切何もせず	炎天下山の爪痕友探す	在りし日の旅の思い出タイ風鈴

（選評）アメフトかラグビーの景だと思うが、これでは冬になってしまうので、季語を汗にして夏の句として詠む。①先ずテーマが新鮮であり、いい意味で俳句らしくない。②結果の「タッチダウン」を上五に置き、これに到る「汗のボールをつなぎけり」というプロセスを後ろで述べるところが巧みだ。③「汗のボール」という措辞がうまい。

（鷲澤さんより、受賞のお喜びの声）この度は会長賞をいただき、恭悦至極に思っております。ありがとうございました。私の家の近くには、ある大学の総合グランドがあり、学生さん達が練習しているのをよく目にします。最近では、アメフトの大学リーグを巡る耳障りなニュースもありましたが、汗をかきながら一生懸命スポーツに打ち込む姿は、見ていて清々しく、この句もそういった光景を詠みました。「汗」は一生懸命さ、「つなぐ」は、ボールをつなぐだけでなく、選手たちの気持ちもつないでいることが伝わってくれればと思います。「俳句は大人の知的遊戯、一度句会にいらっしゃい」と同じ職場の先輩に誘われたのがきっかけでもう？年。始めは作句も四苦八苦でしたが、徐々に自然の風物や季節を味わえるようになり、今では自分の気持ちを託せる、なくてはならない相棒になっています。

（選評）蝉の連続的な鳴き声を読経と捉えたところがお手柄。

（選評）闘病中の妻への細心な夫の所作が詠まれる。猛暑も峠を越して涼しい夜なのも嬉しい。

（選評）夏休みにおける吾子の好奇心を喜びつつ、少し辟易している様がおもしろい。

《投句全体の講評》

今年は昨年を上回る九九句が全国から寄せられ、会員の皆さんの句作りの熱意が伝わってきました。旅先の思い出や、日常を巧みに十七文字にまとめているのはさすがと感心しました。中でも、会長賞の句は躍動的な夏の一瞬を表現していました。引き続き、多作をされますことを期待しています。